

第1回情報学シンポジウム「グラフ論と最適化問題」について

情報学シンポジウム実行委員 恵羅 博

このシンポジウムは、文教大学情報学部設立20周年を記念して、同大学湘南キャンパス（茅ヶ崎）を会場として、2000年9月4、5日の2日間開催されたものです。今後数年間隔で開催の予定されている情報学関連のシンポジウムの第1回として、コンピュータサイエンスの基盤となる「グラフ理論」という基礎理論と、グラフ理論と関係が深い「最適化問題」という2分野がとりあげられました。2日間の会期に、55人の参加者がありました。15の一般講演、2つの特別講演、また、特別セッションとして公開座談会が行われました。

特別講演 「因子分解は辺彩色より難しいか？—工学のグラフ論への応用—」

西関隆夫氏（東北大学）

「平面上の有限点集合の幾何学」

金子篤司氏（工学院大学）

一般講演者（敬称略、順不同）

岡本吉央 潮 和彦 Ken-ichi Kawarabayashi 山田武夫 高橋元法 穴沢 務

小出俊夫 渡部 和 室田一雄 塩浦昭義 根上生也 Zhan Ping 加納幹雄 柳 英樹

藤江哲也 田村明久 譚 勁松 小田芳彰 土屋守正 小川健次郎 岩井真一

公開座談会 「グラフ論と最適化理論の交流は21世紀に何を創造できるか？」

根上生也氏 松井知己氏

司会：加納幹雄氏

1970年代、日本におけるグラフ理論研究の黎明期ともいえる頃には、数学と工学の2分野でグラフ理論に関心のある研究者達が連絡をとりあい、研究会を行って情報交換、あるいは立場の違いによる研究の視点の相違を確認し、互いに刺激しあうことなどを通じ、これらふたつの分野の発展に寄与してきた経緯があります。しかし、両分野における研究者の増加と立場の乖離の増大に伴い、近年では以前行われていたような交流がほとんど途絶えていました。今回のシンポジウムは、再び初心に還り純粋理論、工学的応用という区別を取り払って、2分野が交流し互いに学問的刺激を与え合うという場の復活の機会となることを願い企画されました。今回はささやかな試みではありましたが、参加者の熱意と御協力によって、このような目的の幾分かは達せられたのではないかと存じます。関係各位およびシンポジウムに参加、御協力頂いた皆様に深く感謝の意を表します。

この記念の紀要には、シンポジウム参加者の方々から7件の論文寄稿をいただきました。重ねて御礼申し上げます。